



TITLE:

海外通信・支部通信

AUTHOR(S):

---

CITATION:

海外通信・支部通信. 天界 1923, 3(35): 373-374

ISSUE DATE:

1923-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159988>

RIGHT:

## 海外通信

バサデナより

中村君

今、八月二十六日の午前二時半です。月蝕の最中です。窓を開けて、双眼鏡で今までの月にかけて行くのを要共々眺めておました。それから「天界」を開いて、今頃、日本は午後七時半で、京都では如意ヶ嶽の上にかけてゐる月を君達は今観測してゐられるだらうと想像してゐます。

このバサデナに着いて以来、すっかり僕はなまけものになつて了ひました。さ言つて、別に間違つたことばしてゐないつもりですが、御承知の通り、ウイルソン山天文臺は平生人がバサデナの市の中に住居し、順番がまはつて来れば遠方の山の上へ観測に行くといふだけで、市中には望遠鏡は一つもありません。それに僕は、こゝでは夜の天體観測はやらずに、晝間、天文臺本部の研究室で太陽の寫眞の調査をやることになりましたので、従つて、毎日の僕のプログラムは、朝九時にオプイスへ出勤、午後四時退勤といふわけで、全く、普通の役所の腰辨生活なのです。日本に居るときも、ヤーキースに居るときも、こんな生活はしたことがありません。今までは、晝はむしろボンヤリで、日が暮れかゝるさ本職に取りかゝつたものです。此頃は全く新生活で、御かげで、オプイスを退いて歸る時の「ヤレ〜」一日の仕事がすんだ。宅へ歸つて休まうか」といつたやうな凡人の気分を味

つてゐます。僕も、變れば變るものでせう。今晚の月蝕だつて、さにかく此んな事件を寢室の窓からガラス越しに眺めてゐるなどといふことは、天文家としては怪しからぬことです。ヤーキースに家として居るのなら、なぐられるかも知れません。バーナード教授が生きてゐれば、今晚などは、やはり、ブルース鏡で、いろ／＼面白い寫眞觀測をやつてゐられるのだらうと思ひます。

僕も、九月中旬、カタリナ島から歸つたなら、山の上にも暫くさまり込んで大きな反射鏡を使つて見たいと思つてゐます。さよなら。

一九二三、八、二六。

バサデナの宿の一室にて 山本一清

バサデナより

上田様

昨夜、また、ロサンゼルス市ハリウッドに居住する日本人たちに天文講演をしました。米國へ来てから之れが八回目の講演で、殊にこの節は毎週一回ぐらゐな割合になつてゐます。昨夜の集會は約百名の集り手で、流石にアメリカの人々だけに、十哩二十哩と遠方からやつて来た人もあり、多くは自用のオートモビルで来たのです。日本内地の今日の有様ならば、學術講演會の場外に自動車も二十臺も止めて置くなと思ひもよらないこととせう。――また、日本々國の同胞たちが今日は天文のやうな純理學的なものに非常な興味を起して来たことを、私は知つてゐますが、當地に住む日本人たちは、御承知の通り労働者

二四

などが多くて、平素は非常な排日の空氣の中に不安定な生活を續けてゐる人々です。しかるに此うした人々にも、やはり「天文の話なきいて見やう」といふ不思議な熱心があるのを見て、こゝにも又、私は日本民族といふものが一般のアメリカ人などに見られない高尙な心理の持主である實證を與へられました。私の話は、一昨夜當地で見た部分月蝕や來月十日に見える皆既食を主題とし、それから、ひいて一般天文學上のこと柄を話し、最後に、いつもの通り、ウイルソン山天文臺製の幻燈畫を見せたのでした。夜十時半頃までかかりましたので、稚ない小供たちは多く母親の膝の上で眠つてしまひましたが、小學校の生徒たちは、感心にも、好くきいてくれました。講演後、いろんな人々から、彗星は何だの、流星は何だのといふ質問が盛んに出されたのは、何所も同じこと。

私は來月一日から約二週間の豫定で、いよいよカタリナ島へ参ります。ヤーキースの連中は略々皆到着しました。四五日前フロスト臺長もロサンゼルスへ着きました。一タ、久しぶりの話しをしました。盲目でも目あき以上に種々の事務の整理統一をやつて行く腕前は上らしいのです。何でも、カタリナ島へはヤーキース組を初めとして、東部から来て、それ／＼陣を張つてゐる觀測隊が十個もあるそうで、マデソンのステピンス、エダズストンのフォクス、ノースフィールドのウイルソンのホリョークのヤング女史、ハーバードのカンノン女史等など、名の知れた人々も多くあり

また、こゝから、こゝ暫は、カタリナ島から米國天文家たちの別荘地見たいになつてゐるわけだ。

今度の目食は、氣候も好し、場所も好しなので、新聞や雑誌などで盛んに宣傳をし、又カタリナやサンデーゴあたりのホテルの當きの廣告に今が一生懸命ですから、日食の當日は右の兩地を始めとして、可なり深い部分食の見える此の南加州一帯は人心が沸きかへる程のさわぎ方だらうと思はれます。

ウイルソン山天文臺の人々は三個所に別れて觀測するさうです。先日、五十呎の干涉計を利用した觀測裝置が、自動車に積み込まれて、サンデーゴとレーキサイドに向ひました。サンデーゴではコロナの寫眞、レーキサイドではフラッシュを撮るのだそうです。其の日食の日、ウイルソンの山の上では、百時や六十時や大小の塔望遠鏡によつて、プロミネンスの觀測をやるさきよました。

リクはメキシコのエンセナダ地方を據びました。場所を據び、設備にも注意や工夫を怠らず、萬全の策をさるのは、どうしてもリクのカンベル臺長が天才です。私も一度リクの觀測地を見に行きたいと思つてゐますが、今日までには未だ暇がありません。

皆様によろしく。

大正十二年八月二十七日

ウイルソン山天文臺研究室にて

山本 一 清

## ○岡山支部八月通信

一、水野支部幹事の上京。八月一日から六日迄帝國教育會主催の講習會に出席、平山清次博士の天文に關する講話を聴き、その間三度東京天文臺を訪ひ、太陽觀測所の位置についてその意見を平山臺長に開陳した。

二、天文同好會觀測部例会。八月十二日本部で開催された例會に、水野支部幹事は出席して、終夜ハルセウス流星群の觀測をした。

三、京都天文臺中村要氏の來岡。十七日來岡二十五日迄滞在、その間左記の通り活動された。

1. 十七日から二十二日迄毎夜七時から二時間天體實地觀測の指導。

2. 十九日支部例會にて左の講演。

現代の反射望遠鏡。

3. 二十一日午後八時から岡山圖書館で開かれた、岡山市社會課主催の講演會に出席。

星の話

天體觀測の指導

4. 二十三日午後八時、美作支部例會に臨み。

水野支部幹事

中村 要氏

ハーバード天文臺

黃道の十二宮

四、家庭宣傳。水野支部幹事は上京中及び歸途に次の通り、家庭宣傳を行つた。

一日、東京、那須倫吉氏宅。四日、神奈川縣茅ヶ崎守屋別荘。六日、東京市外多胡眞三氏宅。七日、東京市外矢野目中將邸。九日、名古屋藤岡五氏宅。十日、滋賀縣膳所佐々中佐宅。

後藤潤五氏宅。十日、滋賀縣膳所佐々中佐宅。

十日、大阪山本少將邸。十三日、神戸市岡部弘平氏宅。

五、三時望遠鏡。水野氏は望遠鏡購入の爲め目下奔走中である。

六、通俗天文夜話。水野支部幹事起稿中の通俗天文夜話第一集は遠からず出版の筈である。

## ○岡山支部九月通信

一、天界研究會。八日午後七時から宮原幹事宅にて開催した。

二、天文講演會。十八日午後二時から上道郡西大寺小學校で、同郡理科研究會の主催で講演會が催され、左の講演があつて、午後九時まで實地觀望した。

星の話

水野幹事

## 天文同好會美作支部通信(山本)

當支部第六回例會。八月二十三日午後七時

津山女子小學校にて開催、左の講演がありした。

黃道十二宮について

水野岡山支部幹事

ハーバード天文臺の活動

中村 要氏

因に中村氏は八月の中頃岡山に來られましたのを幸ひ、津山に水野幹事と共にお招きしたのであります。同夜講演後小望遠鏡にて月面觀測を致しました。